

8. 世界史を楽しむ科 (2025年度)

【木曜日 授業予定表】 講師:大阪大学 同志社大学 岡山大学 他

					午 前			午 後					
回	月	日	曜日	講座数	テーマ	内容	講師名	自主活動	内容				
1 学期	1	7	月	①	①入学式 & オリエンテーション (合同、大阪国際会議場)								
	2	4	17	木	1	人類の拡散と海	モンゴロイドの「大航海時代」	富田暁(岡山大学客員研究員)	自己紹介、年間学習・行事予定等の説明	クラスオリエンテーション			
	3		24	木	2	海のシルクロード	モンスーンが繋ぐ世界	富田暁(岡山大学客員研究員)	高大オリエンテーション(理事長によるコーダイの理念、目標等説明:映像) 終了後班役割分担説明				
	4	8	木	3	ギリシャ・ヘレニズム	アレクサンドロスの先駆者と、影を追う王たち	柴田広志(佛教大学非常勤講師)	クラス仲間づくり	・班各担当・班長決定 各担当別会議(代表者決定他)				
	5	5	15	木	4	東西ローマ世界	多神教から一神教に変容する地中海世界	柴田広志(佛教大学非常勤講師)	〃	クラス委員長決定、第1回遠足先行検討			
	6		22	木	5	東アジアのなかの古代朝鮮	「中華」の誕生と古代朝鮮	赤羽奈津子(龍谷大学非常勤講師)	〃	みんなで語り仲良くなろう「私の経験談、趣味、特技」懇親会			
	7	8	5	木	6	東アジアのなかの古代日本	遣隋使はなぜ派遣されたのか?	赤羽奈津子(龍谷大学非常勤講師)	②社会への参加活動(準備活動)(活動事例研究)				
	9	6	12	木	③★	③遠足							
	10		19	木	7	唐とシルクロード	唐帝国の本当の「強さ」とは?	猪原達生(大阪大学特任研究員)	クラス仲間づくり	みんなで語ろう(授業の感想など)			
	11	7	3	木	8	東部ユーラシア世界の展開	共存と繁栄の時代	遠藤総史(中央研究院歴史言語研究所)	イベント対応	健康まつり説明 参加対応検討			
	12		10	木	9	遊牧民と中央ユーラシア	草原世界の暮らしと古代遊牧国家	旗手瞳(同志社大学非常勤講師)	〃	フェスタ概要説明・クラス発表区分(展示・演芸)検討			
	13		17	木	10	モンゴル帝国	モンゴルは、いかに世界帝国を作り上げたか	旗手瞳(同志社大学非常勤講師)	〃	フェスタのクラス発表内容(展示か演芸か)決定			
		8				夏 休 み							
2 学期	14	9	18	木	11	中世ヨーロッパとカトリック世界	西欧文明の中核をなすものとは?	石坂尚武(同志社大学名誉教授)	イベント対応	コーダイフェスタ発表内容検討			
	15		25	木	12	大航海時代	そのときインドは何してたん?	向正樹(同志社大学准教授)	〃	〃 〃			
	16	10	2	木	13	初期グローバル化と近世	ベストから見る近世	石坂尚武(同志社大学名誉教授)	〃	健康まつり参加準備・コーダイフェスタ発表準備			
	17		8	水	④	④コーダイ健康まつり(日程、場所は未定)							
	18		16	木	14	東南アジアの近世	交易の時代と「伝統」東南アジアの成立	遠藤総史(中央研究院歴史言語研究所)		コーダイフェスタ発表準備			
	19		23	木	15	東アジアの近世	「大きな中国」か、「小さな中国」か	猪原達生(大阪大学特任研究員)	イベント対応	〃 〃			
	20	11	6	木	16	イスラームの成立と発展1	新しい世界の形成—共同体から帝国へ—	堀井優(同志社大学教授)	〃	コーダイフェスタ発表準備仕上げ			
	21		19	水	⑤	⑤コーダイフェスタ(豊中市立文化芸術センター)							
	22		20	木	17	イスラームの成立と発展2	再編される世界—オスマン帝国とアラブ地域—	堀井優(同志社大学教授)	活動テーマ検討	自主活動テーマ検討			
	23		27	木	18	自主企画講座				班別活動テーマ検討			
	24	12	4	木	19	東アジア海上世界の形成	中国の経済発展、社会変化との構造的関係	濱島敦俊(大阪大学名誉教授)	〃	〃 〃			
	25		11	木	20	東アジアのなかの台湾	東アジア海上世界形成の一つの果実	濱島敦俊(大阪大学名誉教授)	〃	〃 〃			
	26		18	木	21	東南アジアの植民地化	宗主国は植民地に「良いこと」もした(残した)のか?	富田暁(岡山大学客員研究員)	活動テーマ発表	自主活動テーマ発表会、校外学習報告会等			
					冬 休 み								
3 学期	27	1	15	木	22	19世紀末の世界史における分岐点	①社会革命(=フランス革命) ②経済革命(=産業革命)	杉本宗子 神戸大学	成果発表会対応	成果発表会内容検討			
	28		22	木	⑥	⑥社会への参加活動・・・(仮日程;1学期~3学期の間に活動日を1回設定)							
	29		29	木	23	ヨーロッパ諸国の革命運動から誕生した新しい政治秩序	①国境変更と新しい統一形成 ②現在ロシアがウクライナを侵攻する鍵をクリミア戦争から推測	杉本宗子 神戸大学	成果発表会対応	成果発表会準備			
	30	2	5	木	24	アメリカ合衆国の誕生	植民地から覇権国への道のり	安井倫子 大阪大学	〃	成果発表会準備			
	31		19	木	25	グローバル化の中で	移動する人・もの・情報を管理したい国家	安井倫子 大阪大学	〃	成果発表会準備			
	32		26	木	26	学習成果発表会			向正樹(同志社大学准教授)				
	33				⑦	⑦修了式							
	34	3	5	木	⑧	⑧・⑨卒業旅行(1泊2日)							
	35		6	金	⑨								
	授 業(自主企画、成果発表会含む)					26(講座数列1~26)							
学 習 事 業 (① ~ ⑨)					9(講座数列①~⑨)			2024.11.8					
合 計					35								

注) 1. 日程、カリキュラム内容等は、都合により変更になる場合があります。